

データサイエンス分野の発展に向け、帝国データバンクと横浜市立大学が 連携協定を締結

株式会社帝国データバンク（本社：東京都港区、代表取締役社長 後藤信夫、以下 TDB）と公立大学法人横浜市立大学（本部：神奈川県横浜市、理事長 二見良之、以下横浜市立大学）は、2018 年 7 月 11 日に連携協定を締結したことを発表いたします。

この連携協定は、企業データの社会的活用を図るとともに、データサイエンス分野の人材育成を推進していくことが目的です。今後期待される連携内容として、教育に係る講義の実施、インターンシップの実施、共同研究の実施などを想定しています。

協定締結により、それぞれが持つ人的・情報資源・ノウハウとの相乗効果を期待し、人材交流を通じた人材育成や共同研究を進めるとともに、データが生まれる現場に入り込んだ実践的な人材教育を推進し社会の発展に貢献することを目指します。データサイエンス分野の発展に向けた大学との連携協定は滋賀大学を含め、2 校目となります。

横浜市立大学では、2018 年 4 月に首都圏で初となるデータサイエンス学部を開設し、IoT 社会の到来を見据えてビッグデータから新たな価値を生み出すデータサイエンス人材の育成に取り組んでいます。

一方の TDB では、国の施策である地域未来牽引企業や地域経済分析システム（RESAS）において、データの「研磨」や企業分析などの協力を行ってきた実績があります。

横浜市立大学のカリキュラムと TDB の実績・ノウハウを融合することで、実践的な視野を持つデータエンジニア・データサイエンティストの育成を図り、データの社会的活用を推進し、社会の発展へ貢献していきます。



【調印式の概要】

日 時：2018 年 7 月 11 日（水）

場 所：横浜市立大学 金沢八景キャンパス

出席者：(写真左から)

公立大学法人横浜市立大学

理事長 二見良之

株式会社帝国データバンク

取締役産業調査部長 後藤健夫

【本協定について】

名 称：産学連携に関する基本協定書

目 的：自らの社会的存在意義とその使命を深く自覚し、それぞれが有する人的・物的資源を有効に活用して、社会に貢献する。

内 容：次に掲げるテーマの連携を行う。

- (1) 研究・開発
- (2) 教育・訓練
- (3) 連携調査
- (4) 社会貢献
- (5) 関連する助言・協力
- (6) その他

【株式会社帝国データバンクについて】

創業：1900年3月3日 URL：<http://www.tdb.co.jp>

所在地：107-8680 東京都港区南青山 2-5-20

売上高：513億円（2017年9月期）

事業内容：企業信用調査をベースとした与信管理支援・マーケティング支援

【公立大学法人横浜市立大学データサイエンス学部について】

設置時期：平成30年4月1日

名 称：データサイエンス学部 データサイエンス学科

学 位：学士（データサイエンス）

入学定員：60名

収容定員：240名

所 在 地：金沢八景キャンパス（〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2）

学部概要：データサイエンス学部では、データを読み解くために必要な数理や統計の基礎的な知識をはじめ、不可欠なコミュニケーション力や、イノベーションを起こす発想力、次世代に通用するビジネス力を養成。データから新たな社会的価値を創造できる人材を育成する。

現場重視を特色に掲げ、データが生まれる企業や自治体などの「現場」における実践的な学びの機会を多く提供する。

お問い合わせ先

株式会社帝国データバンク 産業調査部先端データ分析サービス課副課長 中川みゆき	Tel 03-5775-1092
（データサイエンス学部について）横浜市立大学 教育推進課長 田澤 紫乃	Tel 045-787-2422
（基本協定について）横浜市立大学 研究企画・産学連携推進課長 渡邊 誠	Tel 045-787-2510